

特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会
第 21 回理事会議事録

日時 2019 年 9 月 8 日(日)13:00-18:00(17:00 から意見交換会)
場所 東京工業大学 蔵前会館手島精一記念会議室(東京都目黒区大岡山 2 丁目 12-1)
出席者 岩崎理事長・幹事、五斗副理事長・幹事、浅井理事・幹事、有田理事・幹事、遠藤理事・地域部
会長、長野理事、松田理事・幹事、荻島理事・幹事、尾崎理事、木下理事・幹事・地域部会長、
白井理事・幹事、竹本理事・幹事、田村理事、藤淵理事、山西理事・幹事
以上 15 名出席扱い
オブザーバ 山田(和)監事、山田(拓)幹事、小寺幹事、八谷幹事、齋藤幹事、池松地域部会長、中川地域
部会長、事務局牛山
議長 岩崎理事長(定款 35 条による)

配布資料

別紙 1 (報告事項・年会幹事、次年度年会幹事)
別紙 2-1、2-2 (報告事項・活性化幹事)
別紙 3-1 ~ 6(報告事項・研究会幹事)
別紙 4(報告事項・認定試験幹事)
別紙 5-1 ~ 3(報告事項・広報幹事)
別紙 9(報告事項・渉外幹事)
別紙 13-1 ~ 5(報告事項・会計幹事)
別紙 15-1 ~ 4(報告事項・庶務報告)
別紙 16(報告事項・会長からの報告事項)
別紙 17(報告事項・北海道地域部会)
別紙 22(報告事項・沖縄地域部会)
別紙 23(開催報告・3 月 9 日(土)-10 日(日)開催:第 10 回ゲノムグラフ研究会(ゲノムグラフ研究会))
別紙 24-1 ~ 3(開催報告・3 月 19 日(火)開催:質量分析インフォマティクス研究会・第 4 回ワークショップ(質量分
析インフォマティクス研究会))
別紙 25-1、25-2(開催報告・4 月 19 日(金)開催:第 26 回バイオメディカル研究会「健康・医療のデータサイエン
スが乗り越えるべき課題」(関西地域部会))
別紙 26(開催報告・5 月 10 日(金)開催:第 1 回研究会「幹細胞情報学イニシアチブの設立」(幹細胞情報学研究
イニシアチブ))
別紙 27(開催報告・6 月 14 日(金)開催:第 1 回「我が国におけるデータサイエンスの現状と課題」(「臨床・
データ・サイエンティストに期待される専門性、資格、職の機会」研究会))
別紙 28-1、28-2(開催報告・7 月 7 日(日)-12 日(金)開催:第 3 回・質量分析インフォマティクス・ハッカソン)
別紙 29(開催報告・7 月 12 日(金) 開催:第 2 回「データサイエンティストが輩出する機会をどうつくるか?」(「臨床・
データ・サイエンティストに期待される専門性、資格、職の機会」研究会))

別紙 30(開催報告・7月31日(水)-8月2日(金) 開催: Quest for Orthologs)

岩崎理事長、五斗副理事長・幹事より第 21 回理事会開催にあたって挨拶があり、議事録署名人として尾崎理事、五斗副理事長・幹事が指名され、満場一致で承認された。

議案

〈審議事項〉

今回は審議事項がなかった。

〈報告事項〉

【各幹事、会長、庶務からの報告】

1. 年会(五斗副理事長・幹事、山田(拓)幹事)、次年度年会(山西理事・幹事)

山田(拓)幹事より、今年度の年会の報告があった。また、趣意書を開催年度の前年度 12 月ぐらいまでに準備することがスポンサーの獲得に有効であることが報告された。ドメインの契約期限切れによる他企業によるドメイン転用を防ぐため、JSBiドメインの下に年会ページを作ることになった。年会引き継ぎ事項に関して、参加費無料の対象者を明確にする必要があることが報告された。

岩崎理事長・幹事より別紙 16 を基に、年会実行委員会への学会からの依頼事項について報告が行われた。合わせて名誉会員推薦について言及があり、夏に推薦を募り、秋の理事会で議論、春の総会で承認、次の秋の年会で名誉会員講演をする流れとすることが報告された。また、名誉会員、賛助会員もオンライン参加登録枠に加えてほしいとの要望が伝えられた。

五斗副理事長・幹事より次回の年会は 9/1(火)～3(木)に北九州国際会議場(福岡県北九州市小倉)にて開催予定であり、8/31(月)には理事会会場を押さえていることについて報告された。

2. 活性化(山西理事・幹事)、若手(竹本理事・幹事)

山西理事・幹事より別紙 2-1 を基に、年会の活性化(発表資格、受賞資格、賞の選考基準、学生向けのセッション、学生会員、賛助会員)について報告が行われ、来年の年会はこれらの提案を元に進めることについて同意がなされた。田村理事よりキャリアパスセッションなどの効果について質問が上がり、山田(拓)幹事からは、企業にとって情報収集・商品紹介に加えてリクルーティングが重要であり、学生および企業の双方にとって効果的な企画であることが述べられた。岩崎理事長・幹事から来年度の年会では、生命情報科学若手の会からも実行委員会に加わっていただければどうかとの提案があった。

3. 研究会(八谷幹事・有田理事・幹事)

八谷幹事より別紙 3-1～4 を基に、2019 年後半に申請された公募研究会について説明が行われ、公募研究会のアンケートの回答の集計結果の報告が行われた。また、別紙 3-5 を基に公募研究会の今後の運営方針について、メリハリをつけた予算配分に関する提案があった。岩崎理事長・幹事からは、学会会計の問題は急を要する問題である旨が述べられた。木下理事・幹事・地域部会長からは、公募研究会制度にした際に、予算ボリュームを下げなかったのが問題であった旨が指摘された。

4. 認定試験(白井理事・幹事)

白井理事・幹事より別紙 4 を基に認定試験について報告された。その中で、成績優秀者については年会参加費無料になる特典について提案がなされた。しかし、有田理事・幹事よりバイオインフォマティクスのスキル標準の国家資格として認定してもらうため、BI 技術者認定試験を経産省に提案予定であり、それにあたり、学会で BI 技術者認定試験を本学会の事業として囲みすぎないことが必要であり、基本的には認定試験との連携は現状程度に留めることが重要であることが述べられた。これを受け、岩崎理事長・幹事より、有田理事・幹事へ状況確認と共有を依頼し、白井理事・幹事から上がった提案については、今年度は見送るよう述べ、白井理事・幹事は承諾した。

続いて、白井理事・幹事より認定試験のオンライン化について報告された。現在は、認定試験の運営が手一杯であり、人員確保が重要であることが述べられた。岩崎理事長・幹事より、認定試験は良い方向に進んでほしいこと、学会の赤字補填にならないように努力すること、現在の運営のボランティア状態を改善するべきであることが述べられた。

5. 広報(八谷幹事、齋藤幹事)

八谷幹事より別紙 5-1,5-2 を基にホームページのページビュー数について報告され、特に認定試験のページビュー数が上位であるとのことが述べられた。その他、岩崎理事長・幹事より JSBi ホームページに学会員による論文・著書・受賞等のコーナーを新設し、また twitter にて、ホームページの更新情報をお知らせしていることが報告された。八谷幹事より、研究室一覧や、動画の掲載については、外注すべきかどうか、予算等も加味し、検討していることが報告され、これに対し、岩崎理事長・幹事より、学会繰越金はまだあるため、必要なことは提案してほしい旨が述べられた。

6. ニュースレター(小寺幹事)

小寺幹事よりニュースレターの現状について報告された。特にニュースレターのデザイン改訂については検討中であることが述べられ、これに対し岩崎理事長・幹事よりこれまでの年会ポスターのデザインの利用についても合わせて検討したらどうかとの提案、および、現状のマイクロアレイのデザインは変えた方がよいと意見が述べられた。木下理事・幹事・地域部会長からは、ニュースレターのデザインは学会の顔であり、広報や、Web デザインにも関連してくるので、重要な内容であることが述べられた。松田幹事からは、ニュースレターの閲覧数について質問が挙がったが、現在は閲覧数が把握できないことがわかった。

7. 人材育成(有田理事・幹事、白井理事・幹事)

有田理事・幹事より、スキル標準について、後日まとめたものをメール審議にはかることが報告された。

8. 連携(荻島理事・幹事)

荻島幹事より、ISO/TC215 Genomics Informatics SC の国内委員会への協力をお願いをメール審議にはかることが報告された。

9. 渉外(松田理事・幹事)

松田理事・幹事より別紙 9 を基に本年会でキャリアパスセッションを企画し、賛助会員へ講演依頼を行い、開

催することが報告された。山田(拓)幹事より、セッション形態が今回はシングルセッションで2つ続きのセッションであることが述べられた。岩崎理事長・幹事より、今回の様子を見て次回に生かしてほしい旨が述べられた。

10. 男女共同参画(油谷幹事)

油谷幹事が欠席のため、報告は行われなかった。長野理事より、男女共同参画は連絡協議会の会議出席などがあり、幹事への負担がかなり大きいことが懸念点として挙げられた。岩崎理事長・幹事より意欲的な人に幹事になってもらうのはどうかとの提案があった。また、木下理事・幹事・地域部会長より男女共同参画より対象をより広げるため、「ダイバーシティ幹事」へ名称変更の提案があり、今後も議論を進めていくこととなった。

11. Genome Informatics(佐藤幹事)

佐藤幹事は欠席のため、報告は行われなかった。岩崎理事長・幹事より、この幹事のよりよい形態について問題提起があり、有田理事・幹事より、本学会の定期刊行物の Genome Informatics は現在休刊中であり、廃刊していないことから、幹事は必要である旨が述べられた。今後も議論を進めていくこととなった。

12. 個別化医療推進(木下理事・幹事・地域部会長)

木下理事・幹事・地域部会長より、先に述べられた ISO/TC215 Genomics Informatics SC の国内委員会参加について検討している旨が報告された。

13. 会計(大林理事・幹事)

大林理事・幹事は欠席のため、代わりに岩崎理事長・幹事より別紙 13-1~5 に基づき、会計に関する報告が行われた。年間 200 万円近くの赤字を埋める対策を早急に取り組む必要があることが述べられた。

14. ISCB(岩崎理事長・幹事)

岩崎理事長・幹事より 2023 年にアジアで ISCB-Asia と連携した国際会議を開催する計画があることについて報告があった。

15. 庶務報告(事務局)

岩崎理事長・幹事より別紙 15-1~4 に基づき、会員数(男女別、地域別、年代別、県別)、会費納入率、協賛・後援状況、ML 利用状況、年間作業表等の庶務報告が行われた。特に庶務業務を担当する事務局は、外部委託が難しい一方で業務量が多く、多岐に渡ることから、事務局の移転性を確保することが課題である旨が報告された。

16. 会長からの報告事項(岩崎理事長・幹事)

岩崎理事長・幹事より別紙 16 に基づき、名誉会員推薦の仕組み、シニア賞の必要性、JSBi 定款・細則の検討事項、後藤先生の寄付金、学会運営の諸問題、他学会との関係、その他活動について報告された。名誉会員の推薦に関する内規は必要であるとの意見が挙げられた。

【地域部会長からの報告】

17. 北海道地域部会(遠藤理事・地域部会長)

遠藤理事・地域部会長より別紙 17 に基づき、北海道地域部会の活動について報告された。バイオインフォマティクスの推進・普及に関して、情報共有をお願いしたい旨が述べられた。

18. 東北地域部会(木下理事・幹事・地域部会長)

木下理事・幹事・地域部会長より、東北地域部会の活動について報告された。

19. 関西地域部会(中川地域部会長)

中川地域部会長より、関西地域部会の活動について報告された。

20. 中国・四国地域部会(妹尾地域部会長)

妹尾地域部会長は欠席のため、報告はされなかった。

21. 九州地域部会(倉田地域部会長)

倉田地域部会長は欠席のため、報告はされなかった。

22. 沖縄地域部会(池松地域部会長)

池松地域部会長より、別紙 22 を基に沖縄地域部会の活動について報告された。

【公募研究会代表からの報告】

23. 3月9日(土)–10日(日)開催:第10回ゲノムグラフ研究会(ゲノムグラフ研究会)

片山会員から別紙 23 に基づき、開催報告が行われた。学生参加者が多く、交通費補助は非常に助かること、今年の12月ごろ、同研究会を開催予定であることが報告された。

24. 3月19日(火)開催:質量分析インフォマティクス研究会・第4回ワークショップ(質量分析インフォマティクス研究会)

吉沢会員の代理で五斗副理事長・幹事より、別紙 24 に基づき開催報告が行われた。

25. 4月19日(金)開催:第26回バイオメディカル研究会「健康・医療のデータサイエンスが乗り越えるべき課題」(関西地域部会)

中川地域部会長より、別紙 25 に基づき、開催報告が行われた。今年の10月にも公募研究会を開催予定であることが報告された。

26. 5月10日(金)開催:第1回研究会「幹細胞情報学イニシアチブの設立」(幹細胞情報学研究イニシアチブ)

藤渕理事より、別紙 26 に基づき、開催報告が行われた。アンケートの結果を受け、研究会開催の意味について言及された。

27. 6月14日(金)開催:第1回「我が国におけるデータサイエンスの現状と課題」(「臨床的・データ・サイエンティストに期待される専門性、資格、職の機会」研究会)

白井理事・幹事より別紙27に基づき、開催報告が行われた。D2Kについて討論するシリーズについてはこの研究会で終了する旨が述べられた。また、岩崎理事長・幹事より、他NPO法人との連携を公募研究会としてどのように捉えていくべきか問題提起がなされた。

28. 7月7日(日)-12日(金)開催:第3回・質量分析インフォマティクス・ハッカソン

吉沢会員の代理で五斗副理事長・幹事より、別紙28に基づき開催報告が行われた。

29. 7月12日(金)開催:第2回「データサイエンティストが輩出する機会をどうつくるか?」(「臨床的・データ・サイエンティストに期待される専門性、資格、職の機会」研究会)

白井理事・幹事より別紙29に基づき、開催報告が行われた。

30. 7月31日(水)-8月2日(金)開催:(内山先生)Quest for Orthologs

内山会員の代理で会に参加した岩崎理事長・幹事から別紙30に基づき開催報告が行われた。

最後に岩崎理事長・幹事より意見交換会は、以後は年会中のお昼などに時間を取って開催するのが良いことが述べられた。

以上

以上により議事が終了し、議長は18時00分閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするために、議長および議事録署名人において次に記名押印する。

2019年9月8日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

理 事 長 岩 崎 渉 印

議事録署名人 尾 崎 遼 印

議事録署名人 五 斗 進 印